

詠

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

水イチゴを届けたいのだからもうにのの1945年夏の 東京 目地前さち

△評▽敗戦の年の夏。食べ物に飢え、さらには不幸にも死んだ子どもたちも含めて思っている。「水イチゴ」がリアル。

美味しさと食べさせたくなくなる人がいる私から生まれ私とは違う 水戸市 井田 里紗

△評▽わが子を歌った作と思う。上の句と下の句の関係が絶妙。爽やかな愛を感じる。

虫かこのなか交尾するハツタ見て吾子は「リア充やね」と呟く 奈良市 久保 祐子

短夜の見知らぬひとは梅雨明けで今やかたわらの忘れえぬひと 東京 大島 浩彦

樟の葉はいれかわりどてまでを傷ついている言葉か迷う 沼田市 山崎 杜人

炎天に月がなみだをくれたようフェネルの葉にキアゲハの卵 津市 川原田明子

甘酒をなみなみ注ぐ八月の炎にあなたを殺さないよう 武蔵野市 北谷 雪

「接触事故」全てを言いかえるこの世では人の死までもうやむやになる 枚方市 木村 淳子

こだまする祭囃子をお土産に一人暮らした家路へとつづく 東京 秋月 大花

原色のハイビスカスにこの夏を生き延びる方法を教わる 松本市 飛 和

米川千嘉子 選

産声もハラハラしたと母が言いつB29に聞こえないかと 川西市 那須三千雄

△評▽1944年から始まったB29の本土来襲は3万機を超える。戦争の続く国で産している人が今この時も。

夏の夜を半分白い半夏生恨みっこなしと舌を出したり 東京 河野多香子

△評▽葉の一部が白くなる半夏生。曖昧さを抱えつつお互いさま、と言うように。

山百合の風の風鈴ねむくなり幼な日にもどるよに老いゆく 市原市 宮 弘子

わが胸に押すわけではない数多なる本に「廃棄」と印を押すだけ 東京 室伏 圭子

戦死せる息子二人を抱きつつ亡き母帰る来迎え火を焚く 上山市 松田 吉彌

食堂にオッソオッソと入り来る球児の眼ギラキラ光る 秦野市 星 光輝

すさまじき大谷君は日本のみんなの孫なり土用丑の日 成田市 神部 一成

鉛筆の音硬く鳴るテストにて子らの隠さぬあくびやわらか 横浜市 友常 甘酢

運動会当然のようにヒストル音このころ今ころ怖さ込み上げ 幸手市 中村 早苗

親不知歌外波小の半び舎がヒスイの海を見渡しており 上越市 戸枝 誠

加藤 治郎 選

アットホームでいるしい 路地裏でようやく深く息をしました 東京 土居 文恵

△評▽家庭的というところ、くつろいだ様子を思う。そうではない。何か息苦しさがあるのだ。路地裏で安堵する気持ちに共感する。

並としか言わない客に憧れたオレンジ色は東京の色 松原市 たりりずむ

△評▽吉野家だろう。「並」とだけ言う客に憧れた。孤高な感じだったのか。

ざりざりとの腰を撫でればあなたにも毛穴があることと眩しさよ 東京 石田 輝

かの人が玉川上水に入水せし日にわれ自宅で掃除機かける 大阪市 近藤 蘭月

詩草のほのかな灯りしやがみ込みじつと何かを子は見つめおり 京都市 小川 ゆか

気の抜けたソーダみたいなぬるい雨 ハンパな恋にいららするわ 多摩市 水無月 海

雨のふる畑のなかにうつむいて座ってばかり死後のあなたは 花巻市 永汐 れい

夏の月 邪魔なヒールは脱ぎ捨てて終電タッシュの君と青春 東京 吉川 黎

武器を捨て皆でアイスを食べようミルクと卵で作ったアイス 盛岡市 蒲 公 英

双子座のあなたの愛はいらんげと宇宙の匂いは嗅いでみたい 横浜市 佐久間春菜

水原 紫苑 選

いもつとに隠れて吸へるサルビアの襦袢しき陽で喜れ残りたる 川崎市 何村 俊秋

△評▽サルビアの深紅を一層生々しく輝かせる残酷な太陽。その光を吸った悦楽は隠しても妹には知られるはずだ。

わたくしのどの臓器より愛おしい犬だったとタイヤモンド葬 千葉市 芍 葉

△評▽犬との愛を貫くため、遺骨でタイヤモンドを作るのは愛犬家の夢。私もまた。

死者の名をよべば一角獣がきて殖やしてくれつめた硬質 花巻市 永汐 れい

こんなにもするりと取れてアポカドはさみしいだろつかこの空白が 東京 仲原 佳

信仰の春過ぎ去れば臍物と雨の匂いを纏わせて、夏 前橋市 朝比奈 諒

心臓を吐くようにして泣いている神鳴りだけが私の花火 平塚市 芝澤 樹

大空のヴァニタスとして湧き上がる積乱雲は何の怒りぞ 名古屋市 浅井 克宏

将来の夢を訊かれるその度に砂浜に置く椅子は増えゆく 土佐市 関谷 朋子

水族館で買った鏡は水族館とつながつてあて魚群がよぎる 甲府市 村田 一広

それぞれの居場所を探す帽子持ちミラン・クンデラ青き存在 東京 池崎富実夫

短歌・俳句 ネット投稿も

◇投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要) 毎日新聞学芸

部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞のニュースサイト(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)の投稿フォームからも応募できます。二重投稿は厳禁です。入選作はニュースサイト、俳壇についてはアプリ「俳句てふてふ」にも掲載します。



こちらから投稿できます

次回(15日)に掲載します。